

道東太平洋沖の流速場 (2017年06月 海況速報No.176付記)

2017/06/15

中央水産試験場 海洋環境G、釧路水産試験場、函館水産試験場

釧路水産試験場所属試験調査船「北辰丸」による、流れの調査結果をお知らせします。(水温観測結果は「北辰丸」および、函館水試所属「金星丸」の結果を使用しています。)

親潮: 親潮の本流 (O1) は根室の沖合を南西に流れ、流速70~80cm/s程度 (100m深) の流れが十勝沖まで到達しています (図1)。勢力としては親潮の本流が根室沖で反転していた昨年 (2016年) に比べると強めです。南下した親潮は41.5°N付近で東向きに転じており、水温前線 (親潮前線) に沿って70~80cm/s程度の東向きの流れ (RO1) が形成されています (図1、2)。

暖水: 現在道東太平洋周辺に暖水は分布していません (図1、2)。

今後の見通し: 現在道東太平洋では41°N付近まで親潮水が分布しており、また付近に目立った暖水塊も存在しないことから、今後中深層 (数10m以深) の水温は例年並みからやや低めで推移すると考えられます。一方で、気象庁の長期予報では今年の夏は気温が高めで推移すると予想されています。予報通り推移した場合、今夏の表層水温は高め、中深層は低めと上下の水温差が大きくなる可能性があります。(参考: 気象庁季節予報 <http://www.jma.go.jp/jp/longfest/>)

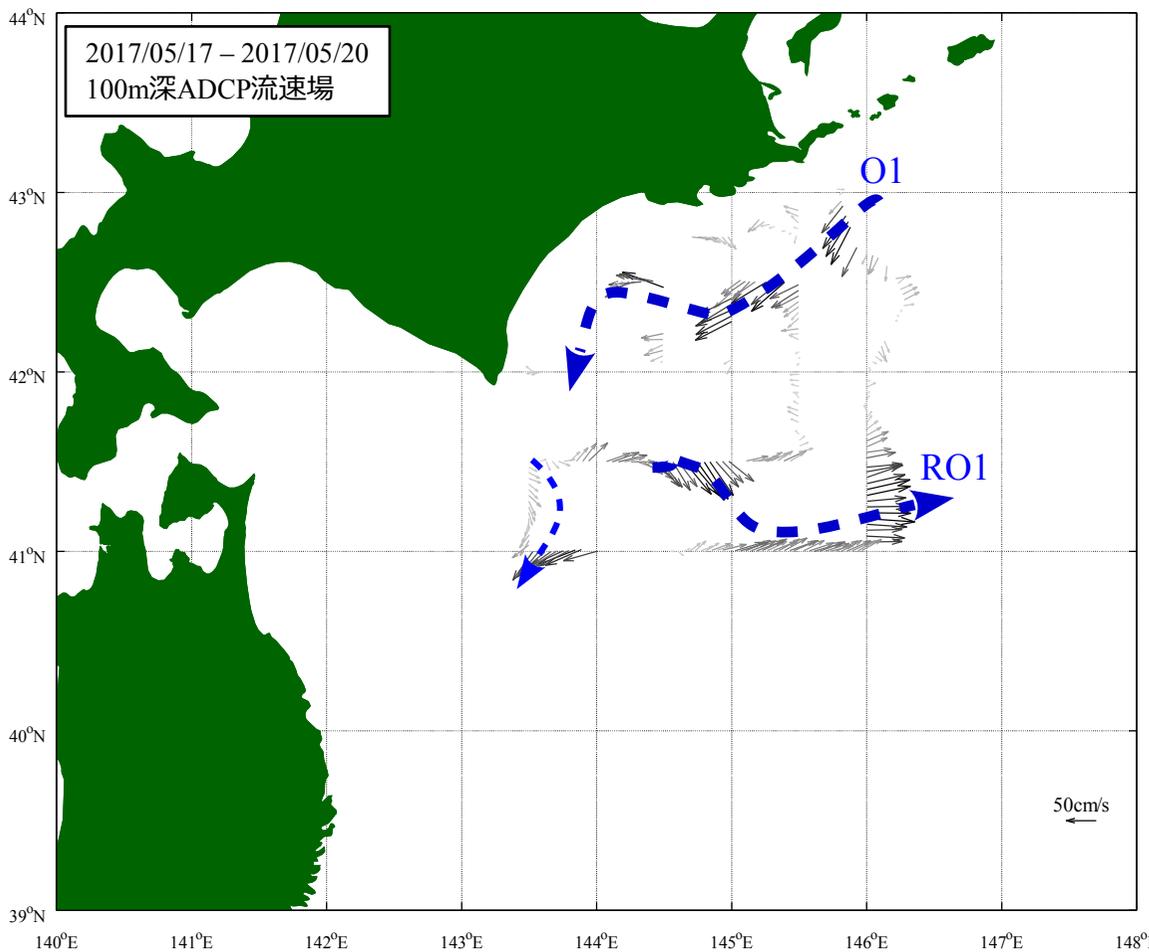


図1 ADCPによる100m深の流速場と模式図。実線矢印は向きでその場所の流向を、長さとし色の濃淡が流速を表す。点線矢印は推定された親潮 (青) と暖水 (赤) の流れの模式図

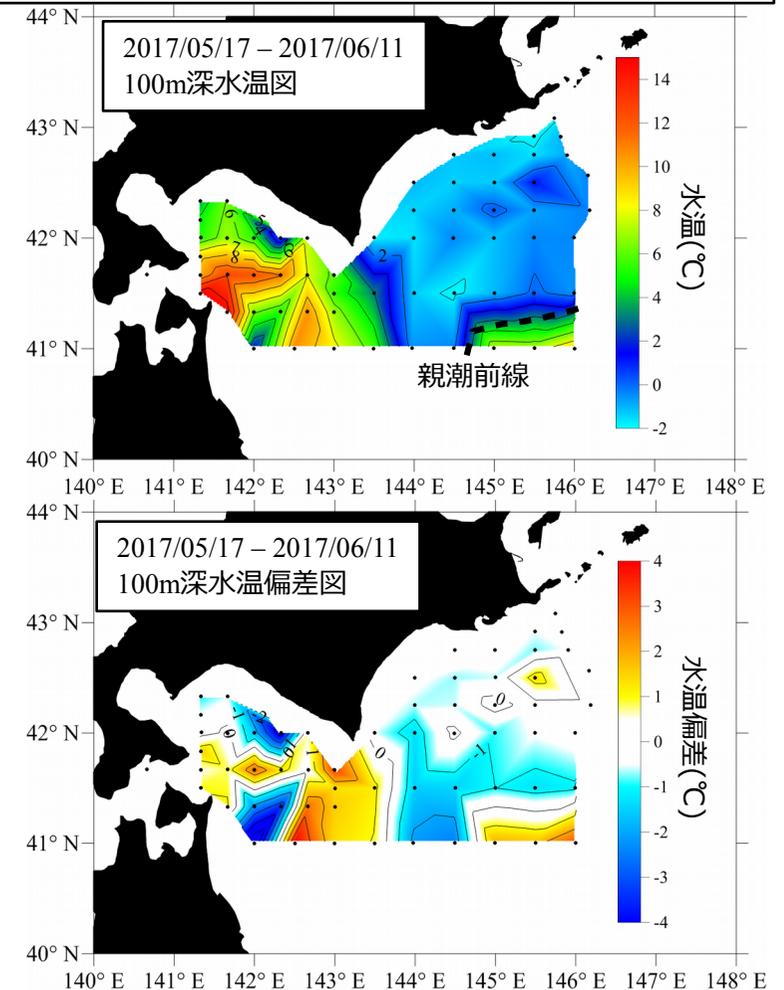


図2 (上) 100m深水温図
(下) 100m深水温偏差図 (1989~2008年平均からの差)